

## 5 アビダルマの“いし”

【全4回】／開催方法：オンライン

きむら ゆかり  
木村 紫

立正大学非常勤講師



受講料 会員料金：¥9,000 早割価格：¥8,000(納入期限：7月21日)

### 【日程・時間】【全4回】

7月25日(土) 12:30~14:00 / 14:10~15:40

7月26日(日) 12:30~14:00 / 14:10~15:40

### ■受講に必要なもの

[テキスト] レジューメ配布

有部アビダルマで論じられている、“い”か“し”で始まる言葉を四つ集めてみたら、五位七十五法の五位のうちの有為法の四つになりました。残念ながら“い”からも“し”からも始まらなかったあと一つは、無為法です。この四つの有為法は、私たちを構成する色蘊・受蘊・想蘊・行蘊・識蘊という五蘊にもなります。“い”か“し”で始まるこれらの四つについて、ヴァスバンドゥ（世親）が書いた『阿毘達磨俱舍論』の記述をもとにお話していきます。また、その四つ以外の無為法にも少し触れたいと思います。

1. 色 普通「いろ」と読みますが、呉音読みでは「しき」と読みます。広い意味ではあらゆる物質的なものを指し、狭い意味では、眼で認識されるものを指します。
2. 意・識・心 「い」「しき」「しん（こころ）」というこの三つは同じものであると説かれていますが、ヴァスバンドゥはそれぞれの呼び名に語源解釈を提示しています。
3. 心所（心作用） 心のあとは、心の作用である「しんじょ」についてです。受も想も心作用ですが、その他の煩惱も含めた心作用はすべて行蘊になります。
4. 心不相応行 「しんふそうおうぎょう」、何のことやら想像もつかないと思います。有部アビダルマは、物質的なものと心と心作用だけで私たちが構成されているのではなく、この心不相応行と呼ばれるものも存在として認め、行蘊の一部として論じています。さて、どういうものでしょうか。

### 【参考書】

存在の分析〈アビダルマ〉—仏教の思想2

著者：上山春平・櫻部建 出版社：角川書店 出版年：1996